

(別紙 懇談概要)

1. 国の食料自給率、39%～40%に対し、むつ市は18%と低い。自給率向上のため、市として、どういうテコ入れをしているのか。

(回答)

食糧自給率は、もっと高めていかなければいけない。

「むつ市のうまいは日本一」の施策で、むつ市のものを育て、むつ市のものを食べるという、地産地消運動を展開している。

農業に携わる方々が、地産地消の影響によって、所得水準を上げていただくと後継者問題や放棄されている耕作地等に対しても効果があると思っている。

食糧自給率を高めることは、国においても非常に大切なことであり、むつ・下北の人達が、地産地消を進める運動によって、大きな弾みがついてくるのではないかと考えている。

2. 国道や主要幹線道路に連結されている私道の車の通行量が多く、公道化状態にある。いたみも激しくなっている。私道の場合、市での補修が制限されると聞いているが、このような利用形態を考慮して、整備してもらえよう検討願いたい。

(回答)

通り抜けで重要な路線になっていて、ほぼ公道化しているような状況と思う。

必要な路線で、市道にすべきものとした場合は、整備されていなくても、私道を寄附いただければ寄附を受けて市で整備することとなる。ただし、その道路が幹線道路になっているかどうかは、市で現地調査等を行った上で判断することとなる。

また、私道整備補助金制度がある。5戸以上、20m以上の道路であれば補助する制度であり、寄附を受けられない場合は、私道整備補助金を利用していただきたい。

様々なパターンがあると思うので、そのパターンに応じ、どのような対応ができるのか、研究させていただく。

3. 旧ショッピングセンター田名部店の跡地利用について、地域活性化のため、公共施設建設を考えていただきたい。

(回答)

今、むつ市は財政的に厳しく、23年度までに何とか赤字解消を図る計画で、順調に進んでいる。一方で、むつ病院の不良債務を今春、解消し、大畑町、川内町、脇野沢村、かつての診療所の不良債務を市の一般会計から繰り出していかなければならない非常に厳し

い状況である。さらに、廃止になった学校や庁舎の耐震性の問題から、撤去しなければならない問題もあり、なかなか新たな公共施設をとすることは非常に厳しい。

商工会議所から要望書が提出され、中心市街地活性化の様々なご提言があった。

駅前通り商店街、来さまい館周辺、小川町商店街、新町商店街の田名部地区に関して、様々なご提言を受けたので、大湊地区も考慮し、将来的にどのような絵が書けるのか担当部署に検討させている。

まず、第一に、財政再建を果たし、これまで皆さんに、ご苦勞をおかけしている部分に対しては、皆様の様々なご提言を受け、施策を展開していきたいと思っている。

- 4．新庁舎に移転後は、スペースも広くなる。ふれあいの場として、月1・2回、でも高齢者や税などを相談できる部屋を作っていただきたい。

(回答)

新庁舎の工事の方も、順調に進んでおり、9月24日から新庁舎で業務開始予定となっている。新庁舎の敷地内へJRバスも乗り入れ、利便性を高めるということで、協議が進んでいる。また、電話番号も本来なら24局の地域となるが、22-1111で電話番号も変わらないなど、様々な形で、ご相談などを受けていきたいと思っている。

集える空間については、新庁舎が広くなり、広報広聴課に入っすぐの所に市民ギャラリー等、展示空間も準備した。

出前講座もあるが、出前ではなく、今度は、市民の皆様におかけしていただいて、市役所の中で、お話を聞くという場面も今後は検討する必要があると思っている。

身近な市役所、使いやすい市役所づくりをしていきたいと思っている。

- 5．第1田名部小学校手前に小公園がある。以前は、水飲場もあり、池もあったが、何十年も放置状態にある。近くには神明宮もある。土留めの網が無くなり、大きい石もころんできている。早急な点検を願いたい。

(回答)

大きな岩が崩落の危険があるということなので、明日直ちに現場を確認させる。

しっかり現地を調査させ、安全な処理をさせていただく。